

# 旧市内の地域自治区の区割案について

## 地域自治区を考える合併前上越市議員座談会で意見交換

10月3日、自治基本問題特別委員会に、旧上越市に地域自治区を導入するための区割案と地域協議会の委員定数案が示されました。

### 高田区と議員の話し合い

この区割りには、議員の間でいろんな意見が交わされていました。それで「高田区」選出の議員8人に「これでいいのかわかり合ってみよう」と声をかけてみました。10月4日の集まりでは、ざっくりばらんの話し合いで「思い」が語られ、いろんな「アイデア」も出されました。「8人だけではなく」ということで、旧上越市選出議員全員に声をかけようということにな

### 大きな区から小さな区まで

おおむね昭和の大合併前の旧村を基礎とした区割案との説明でした。「統治の記憶」(昭和の合併前の町村時代を思い起こすこと)という言葉がありますが、この区割り案では、この統治の記憶を呼び起こすことにならないか心配です。

「高田区」という人口3万人余の区がで

り、私が代表して議長に話しました。

### 旧市全議員の座談会

11月12日の各派代表者会議に議長から提案され、意見が交わされました。その結果、「議会の正式機関としない」と、「言い出しつべの杉本が仮の座長をすべし」ということになりました。

### 最初の座談会

11月21日に最初の会合がもたれ、意見交換をしました。自由発言です。行政抜きで議員だけの議論というのは、初めての経験でした。実に様々な意見が出る一方、「桑取区」という400人弱の区まであるというのは、何ともアンバランスです。特に高田区の大きさでは「地域のことは地域で協議して決める」という地域自治区の目的を達せられないのではないかと思えます。また、旧春日村が二つに分断され、南部は「春日区」とされましたが、北部の国府や五智は「直江津区」に編入されています。

されましたが、「座談会」ですから意見集約はしません。そして、12月議会中に再度開くことだけを決めました。

### 議員の意向は行政側に伝わった

12月議会の最終日(13日)、本会議終了後に「座談会」を開きました。

「座談会」では、昨日(12日)の新潟日報に、同紙が30議員に対して行ったアンケート結果が公表されたことから、「あのアンケートに議員の考えが反映している」「30議員の動向は、行政側にも伝わったはず」「これ以上は、個々の議員や会派が対応すべき」という意見が出されました。そして、この日の会合をもって集結することにしました。

### 解散後、本城議員が、「座談会」で意見を出し合ったことが、アンケートに影響をあたえたね

「やって良かったよ」と言っていました。

日本共産党上越市議会議員 杉本敏宏の

## 市政レポート

2007年12月23日 No.169  
発行・杉本敏宏事務所  
上越市東本町5丁目1番38号  
TEL 025(524)3787 FAX 025(524)3832

# 冬期集落保安要員制度

橋爪議員の一般質問で一つの道路から軒先までの道つけや高調査によりリアルに豪雪地の実態がわかり。対策が求められたのでしよう。

この変化、さらに促進させる必要があります。

私が議員になった当時の旧上越市には、この制度による保安要員が6人配置されていました。その後、県が制度の縮少をはかってきた時私は、「県に縮少ではなく拡大・拡充するよう求めるべきだ」と主張しました。その時の市の態度は、「創設時と状況が変わり、必要性がうすれた」ということでした。

制度創設時の主な仕事は、冬期における集落間の道踏みでした。確かに集落間道路は、機械除雪の発達で一定の解消はかかれています。しかし一方で、

## 小規模修繕の実績

実績宣伝に使うために契約課から、「小規模修繕契約希望者登録制度」の18年度までの実績一覧表をもらいました。

16年度からの3年間の実績は、下表の通りです。

対象事業の件数が14,066件ですから、約32%になります。また金額では、約20%です。

### 小規模修繕の実績

(金額=千円)

	発注件数	発注金額	登録者数	受注者数
16年度	1,177	51,958		
17年度	1,686	76,983	338	171
18年度	1,607	66,384	334	188
合計	4,470	195,325		

※16年度の登録者数は、130名程度でした。

※17年1月1日に13町村を合併しました。

## 人のことを「資源」という感覚

行政文書だけでなくいろんな所で人のことを「人的資源」という言い方が、見うけられます。最近、人材派遣会社が、トラックで労働者を運んだということが報道されましたが、これなどは人を人と見ず、原材料と同一に見ることの表れだと思えますが、「人的資源」の行き着く先を見た思いです。「人材」も同様です。

12月議会の総務常任委員会で、第5次総合計画の議論をした中で、「人を資源という言い方について検討する考えはないか」と質問して見ました。五次総の中にも、そうした表現がみられるからです。

行政としては広く使われていることから、「気楽に」使ったようです。私の感覚では、いわゆる「差別用語」以上に問題のある言葉だと思えます。言葉狩りをするつもりはありませんが、その言葉が醸し出す奮闘気や意味するところをよく吟味して言葉を使うべきではないかというのが、私の考えです。

安易に流れないように警鐘を鳴らす意味で指摘しておきました。